地域に貢献する四国の企業

―第６回四国でいちばん大切にしたい会社大賞　受賞企業訪問―

今回、29、30日の2日間にわたって取り上げる企業は、いずれも2017年2月に開催された「四国でいちばん大切にしたい会社大賞」の受賞企業。同賞は「四国の企業で、社員や顧客、地域から必要とされ『大切にしたい会社』と思われている企業等」を表彰するもので、四国地域イノベーション創出協議会、四国産業・技術振興センター（STEP）、産業技術総合研究所（産総研）四国センター、中小企業基盤整備機構（中小機構）四国本部が主催し、四国経済産業局のほか、四国の70の関係機関が後援・協力している。人口減少、生産年齢人口減少、少子高齢化という潮流の中、四国の企業はいずれも人手不足であり、人材確保・定着が最大かつ喫緊の課題となっている。ところが、そのような中でも、社員と経営理念を共有し、多様な働き方に合わせて社員満足度を高め、また地域との関わりを大事にして、業績を伸ばしている企業もある。そこで、中小機構四国本部の髙山千佳歳本部長が17年2月に同賞を受賞した4社を訪問。現場リポートとインタビューを通じて事業戦略や社員を大切にする取り組みなどについて紹介してもらった。

中小機構四国

現場リポート

従業員を大切に育てる理念

中小企業基盤整備機構四国本部長　高山　千佳歳

人口減、少子高齢化がいわれる中、四国4県における中小企業の数は、12年から14年までの2年間に、約2900社（▼2・2%）減少しました。この減少率は、日本全体の減少率（▼1・1%）の倍のスピードとなっています。これらは、17年4月に公表された「2017年版中小企業白書」によるものですが、同白書には中小企業で働く従業員数についても掲載されており、四国の中小企業で働く人の数は、同期間（12―14年）に、約6600人減少しました。

四国4県の事業者が減り、四国での就業場所の多様性がなくなり、四国で働きたくても働く場所がなくなって人が四国から出て行き、その結果、四国の市場が小さくなり、また事業者が減るという負の連鎖が起きつつあります。

一方で人手不足も深刻になっています。国においても17年3月に「中小企業・小規模事業者人手不足対応ガイドライン」をとりまとめ、公表していますが、その中には「中小企業・小規模事業者にとって、人手不足は大企業以上にピンチであるともいえる。（中略）女性や高齢者等の多様な働き手に目を転ずれば、活路は開ける可能性はある。多様な人材が最大限能力を発揮できるよう、働き方改革や職場環境の整備を進めることで、企業の魅力を高め、潜在労働力を掘り起こすことにより、人手不足に対応していくことが今後の活路となりうる。実際、人材確保に成功した企業は成功していない企業に比べて、就労条件、賃金、福利厚生、やりがい、人事・教育制度の整備を重視している傾向にある」との記載があるとおり、売り上げ至上主義から、少しずつではありますが、社員への経営情報の開示・経営への参画、社員の満足度向上、地域との関わりの強化などにも重点を置く企業が増えていると感じます。

29日と30日に取り上げる企業は、自社の従業員を大切に育てることを理念とし、経営層と社員が壁を取り払い、一体となって多様な働き方を創意工夫をもって受け入れるなどして、現場が活性化し、業績も伸びているところです。このうち、29日は2社を紹介します。

はなおか（徳島県板野郡北島町）は、現在の建築・施工の会社を立ち上げた際に地域の方々に支えられたことが今日の礎になったとのことで、地域に育てられているという意識を常に携えています。地元の大工さんとは専属契約し、定期会議で理念を共有することで丁寧な施工を実現し、また、大工を辞めた後の生活設計まで提案するなど、地域密着型経営を実践しています。

ときわ（徳島市）は、女性の比率が7割と高く、妊娠や出産により、せっかく育った従業員が辞めていくことをくい止めるため、フレックスタイム制度を全員に適用し、また ジョブローテーションを的確に行うことで、自身の担当業務だけでなく、いつでも他部署の支援ができる多能工型社員に育てあげ、責任と裁量をもたせることで高い定着率を達成しています。

一見すると回り道をしているかのように捉えられることもあるかもしれませんが、両社長のインタビューからは、「社員が会社に満足し、また地域に必要とされる企業となっていかない方が、むしろこわい」といわれているような気がしました。

四国でいちばん大切にしたい会社大賞とは

▼目的
社員や顧客、企業から必要とされ、「大切にしたい会社」と思われる企業等を発掘・表彰することにより、企業経営の新たな取り組みを後押しし、企業活動の活気づくり、ひいては四国地域の経済活性化に貢献すること。

▼応募資格
四国地域に所在する企業または民間団体とし、過去３年以上にわたって以下の９つの条件のうち、６項目以上が該当していること。

(1)人員整理、会社都合による解雇をしていない（自然災害の場合を除く）
(2)重大な労働災害がない（自然災害の場合を除く）
(3)高齢者の就業機会を確保している
(4)社員満足度調査を実施したことがある
(5)仕事と子育て・介護を両立するための環境を整備している
(6)下請企業・仕入先企業へのコストダウンを強制していない
(7)障がい者雇用を実施している
(8)環境保全活動を実施している
(9)黒字経営（経常利益）である

▼お問い合わせ
中小企業基盤整備機構四国本部
香川県高松市サンポート２－１　高松シンボルタワー　タワー棟７階
電話：０８７－８１１－３３３０　FAX：０８７－８１１－１７５３
担当　企画調整部　醍醐（だいご）、宮本（みやもと）

訪問企業インタビュー

―四国経済産業局長賞―

株式会社ときわ
高畑　富士子社長

安心して長く働ける環境づくり

―事業内容を教えてください。

「1956年から貸衣裳店を家業として営み、66年に法人化しました。現在は、ブライダル関連の貸衣裳を行うコスチューム事業、全館貸し切り型で結婚式やレセプション会場にも利用できるバンケット事業、レストラン事業、ブライダルのトータル提案を行うコンシェルジュ事業が柱となっています」

―正社員比率が81・6%と高いですね。

「ブライダル産業は、まずは従業員自身が幸せで楽しくないと、お客さまは楽しくならないと考えています。そのためには安心して長く働ける環境が大切です」

「また従業員のうち70%が女性で、管理職も過半数が女性です。過去3年間で妊娠・出産を機に退職したのは2人のみで、県外へ嫁がなければならないという理由でした。また、育休（育児休業）取得後の職場復帰率は100%と、定着率が高いことも特徴です」

―定着率はもともと高かったのですか。

「当初はパート採用が中心で年齢層も高かったため、なかなか定着してくれませんでした。そのため、ある時期から新卒採用中心に切り替えました。若い人に仕事のやりがいや面白さを知ってもらうこと、働きやすい環境作りを推進した結果、徐々に定着してくれるようになりました。今ではお母さんと娘さんが一緒に働いている例もあります」

―全従業員を対象にしたオールフレックス制のメリットは。

「各自の裁量で出退社時間を決めることができて中抜けも可能なので、子どもの送り迎えや学校行事にも出席しやすくなります。周りに先輩ママさんが大勢いるので、後ろめたさを感じることもないと思います」

「一方、育休取得率が高くなる中でオールフレックス制を進めていくと、ある部署の人員が不足して仕事が回らなくなることも想定されます。こうした事態に対応するため、当社ではジョブローテーションを積極的に行っています。2、3年ごとに部署を変わっていくことで、一人で複数の業務を遂行する能力が身に付くため、一時的な人員減にも柔軟に対応することができます」

―四国でいちばん大切にしたい会社大賞の四国経済産業局長賞を受賞されました。

「社員のモチベーション向上につながればという思いで応募しました。受賞後は、周りの企業から評価されることが一層増えました」

―今後の事業展開は。

「徳島県を中心に事業展開する中で、他地域にも徐々に進出しています。今後はさらに積極的に展開していく計画で、17年11月には沖縄に宿泊、レストランを備えたウェディング施設を開業する予定です」

㊤「環境が整えば出産後も必ず復帰してくれる」と高畑社長は実感する（社内イベントの夏祭り）㊦管理職の6割が女性。女性主導のプロジェクトなど活躍の場が多く、やりがいを実感

【会社概要】
▽本社所在地＝徳島市、088・622・0011（代表）▽資本金＝3600万円▽従業員＝125人（2017年6月1日現在）▽設立＝1966年（昭和41）11月▽事業内容＝ブライダル関連衣裳のレンタル並びに関連商品の販売、海外挙式プロデュース、結婚式・披露宴など各種パーティーの企画運営など

―中小企業基盤整備機構四国本部長賞―

株式会社はなおか
花岡　秀芳社長

感動される会社を目指す

―事業内容を教えてください。

「1989年に上水処理関連の会社として創業し、96年に注文住宅事業に業態転換しました。徳島県を中心に注文住宅の設計・施工やリフォームなどを手がけています。『お客さまに感動される会社』を目指して地元密着で事業展開しており、おかげさまで県内住宅会社の中で、注文住宅着工件数は12年連続で第1位となっています」

―『正直に王道を行く』という経営理念を掲げています。

「正直とは、素直な心でお客さまの気持ちに立ち、何が正しいか正しくないかを判断基準とすることで、王道とは、関わる人すべてに信用、信頼されるという目標に向かって心がぶれることなく、一歩ずつ着実に歩むことを意味しています」

―大工さんと専属契約されていますね。

「創業以来、大工さんと誠実に仕事をする中で仲間が増えていき、現在は52人となっています。専属大工さんのメリットは、経営理念や『親切に　丁寧に　きっちりと』という社訓を共有でき、どの現場でも変わらない高い品質で丁寧な施工をお客さまに提供できることです」

「月に1度、『大工さん会議』を行っており、そこで会社の家造りに対する考え方を伝えることで、共通認識を持てるようにしています。逆に大工さんから現場の声として改善提案などを頂くこともあります。また建築に関する法改正や施工技術などの勉強会を実施し、大工さんのスキルアップも図っています。さらに大工を引退した後の生活設計も提案しています」

―四国でいちばん大切にしたい会社大賞に応募したきっかけは。

「いつかはチャレンジしたいと考えていたところに社員からの強い要望があり、社員の満足度向上や人材確保、企業価値の向上につながればと応募しました。受賞後は新卒応募数も増え、社員にも『より良い会社にしたい』という認識が一層芽生えたように感じます」

―今後の課題は。

「現在は年間約150棟の施工ができる体制ですが、2030年をめどに200棟の施工が可能な組織作りを目指しています。また門扉や塀、車庫などいわゆるエクステリアについては、外注しているものを内製化することも目指しています。そのためには、管理職の育成やマーケティングなどが必要になってくるので、中小機構の支援メニューを活用していきたいと考えています」

―花岡社長の目指す会社像とは。

「『志は高く腰は低く』をモットーに、社員が生き生きと活躍し、未来に向かって成長できる会社であること、さらに地域の皆さまから信頼され、ほめていただける会社になりたいと思っています」

㊤丁寧な施工は、きれいな現場から始まる（一斉現場清掃）㊦月に1度の「大工さん会議」で、会社の方針や理念を共有する

【会社概要】
▽本社所在地＝徳島県板野郡北島町、088・698・1114▽資本金＝2000万円▽従業員＝107人（社員55人、専属大工52人）▽設立＝1989年（平成元）7月▽事業内容＝注文住宅の設計・施工、分譲住宅の設計・施工・販売、企画住宅の設計・施工・販売、リフォーム全般など

中小機構 四国

中小企業を、日本の原動力に。

中小機構四国は、市場環境やニーズの変化に応じたサポートを通じ、
挑戦する中小企業のチャンス創出をお手伝いします。

日本を支える中小企業へ、中小機構がおくる「3つのエール」。

1 CHALLENGE…「理想に挑む」　地域資源活用・農商工連携・新連携／経営相談・専門家派遣／ファンド事業
2 CHANCE…「需要を掴む」　販路開拓／オンライン・マッチング／海外展開／情報提供
3 CHANGE…「変化を取り込む」　事業継承・事業引継／高度化事業／共済制度／人材育成

独立行政法人 中小企業基盤整備機構 四国本部　☎087-811-3330　中小機構　四国　検索

「いい会社づくり」勉強会 IN 四国

～参加型・対話型のプログラムを通してその秘密に迫る!～

日程　平成29年7月19日（水）　13:00～17:30（12:30～受付開始）
訪問企業　株式会社ファースト・コラボレーション
～第1回「四国でいちばん大切にしたい会社大賞」奨励賞　受賞～
～第5回「日本でいちばん大切にしたい会社大賞」審査委員会特別賞　受賞～
<勉強会開催場所>グレース浜すし（高知県南国市大桶甲1504-8）
申込期限　7月10日（月）
対象　いい会社づくりを目指す企業の経営者、従業員等
参加費　無料（懇親会に参加される場合は懇親会費（4千円程度）が別途必要となります）
申し込み　四国でいちばん　検索　申込者にご記入の上、FAX（087-851-7027）ください。
問い合わせ
四国地域イノベーション創出協議会 事務局 四国産業・技術振興センター
企画総務部　糸井・大西　TEL:087-851-7025　FAX:087-851-7027